

接触圧測定器 AMI3037-10-II / AMI3037-5S-II 操作手順

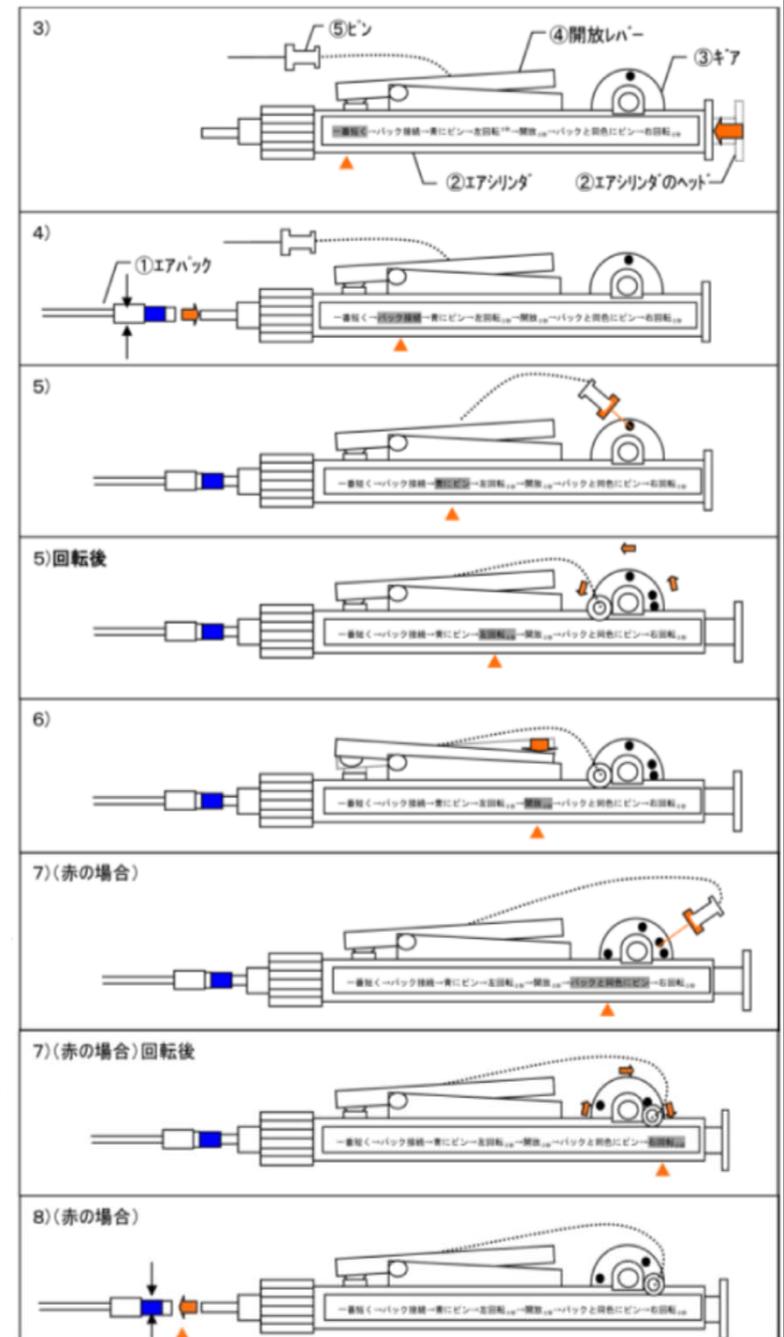
注意・機能・目的

* 3秒以上	操作手順	* 印は3秒以上の間隔で操作・右図参照
1)	配線 機器背面に電源ケーブル、出力ケーブルを接続。 出力ケーブルは、データ収録装置などに接続。	表示1kPaあたり、電圧0.1V(100mV) 出力
2)	電源ON	30分程度で計測可能(値の変動がない状態)
* 3)	②エアシリンダのヘッドを③ギヤ操作で一番短い状態(押し切った状態)にする	後の操作ミスなどによる①エアパックの破損防止
* 4)	-3秒後- ①エアパックと②エアシリンダを接続 膨らんだ状態や大きいエアパックは、空気を抜く→	④開放レバーを押しながら①エアパックを掌で潰す
* 5)	-3秒後- ③ギヤの青穴に⑤ピン穴にを差し、その⑤ピンまで③ギヤを回す この時、回転軸が動かないように注意	①エアパックのエアを完全に抜く この時、エアパック内は陰圧となる
* 6)	-3秒後- ④開放レバーを押し大気を入れる	①エアパック内を大気圧と同じ
* 7)	-3秒後- ⑤ピンを①エアパックと同色の③ギヤの穴に差替え、その⑤ピンまで回す φ30は⑤ピンの差替え不要、③ギヤいっぱいまで回す φ15/黒、φ20/赤、φ25/緑、φ30/青 *黒は赤の半分	①エアパックが1mm弱の厚さまでエアが入る φ20:ヒト→赤/マネキン→黒(赤の半分):比較可 参考: 赤のエア量は、約0.3ml(1cc)
* 8)	-3秒後- ①エアパックを②エアシリンダから切離す。③ギヤが動かないよう注意!!	①エアパックの逆流防止ジョイントでエアは漏れない
9)	機器本体の表示『0.00』 ZEROボタンを押し、0.00にする	機器内温と室温の違いがあると値が変動する
10)	機器本体に①エアパック接続→接続は1回。(接続時に0.2~0.3kPa程度エアが入る)	切り離し再接続の場合、封入エア量が増える
11)	プレス試験:プレス試験機、または、掌でエアパックを真上から押し潰し、最大値を読み取り、3回行いエア漏れも確認。手で潰した場合は高めの値となる。 多点計測の場合、最大値を揃える場合は、低いchのエアパックを接続し直すと1回で2~3kPa最大値が増える。	測定範囲と、エアパックの不良を確認する。 また、封入したエア量の確認を行う 高い計測を行う場合は、再接続しエア量を調整し多く入れる場合もある。接続ごとに2~3kPa増える
12)	エアパックを計測部位に付け、計測開始。<別紙:エアパック取付方参照> 部位取付た際、計測する値より低い状態で付ける。(多少の値が出ます)→ → *カバーテープを使用した場合、多少圧迫がある方がシワなどの影響が少ない	エアパックを付けた際の値は、その値を差引せずその値で読みとる。カバーテープ使用しても同じ。ここでZEROを押しした場合に高い計測値で、その分の差が出る
13)	計測終了。計測終了後、プレス試験。(エア漏れの確認) プレス試験機で最大値を読み取り、計測値より高いことを確認。	計測値が、プレス試験の値と同じ位であると、計測目的の値はもっと高い可能性がある

* 機器にエアパック接続したまま、後日使用する場合は、電源入れ安定時間経過後、11)プレス試験から行い、エア量確認後、異常無い場合は計測できます。低いCHがある場合は、エアシリンダでエアを入れ直す。

使用上の注意!!

- プレス試験の際、横ズレさせないで潰して下さい。……横ズレさせると破損の原因となる。
- エアパックは極端に膨らませない。(参考:標準φ20は、厚み2mm以上)……破損の原因となる。
- 機器本体に70kPa以上の圧力を掛けない……機器本体の破損の原因になる。



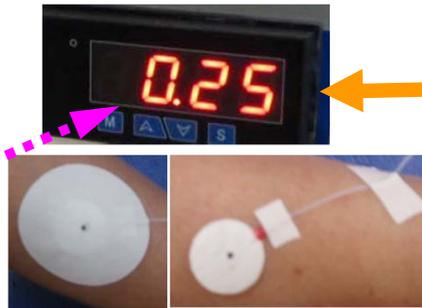
注意:エアパックを部位などに着けた際の圧迫値は、そのまま誤差とし、測定範囲を知るうえの低い方の値です。(例:部位に着けた際の値1.2kPa、プレス試験値が20kPaの場合→測定範囲は1.2~20kPa)着けた際の圧迫値をそれ以上の測定値から差し引くと、その分低い値となります。測定値はそのまま読み取ってください。

機器構成



皮膚面をアルコールなどで油分をふき取ると、はがれ難い

12) **エアパックの取付**
取付時の多少の圧迫は、加圧が高くなるとともに誤差が少なくなります
表示を見ながら取り付...
0.010~0.030V程度。曲率
が大きい時や高圧測定時
は、値が高くても誤差はク
リアされます

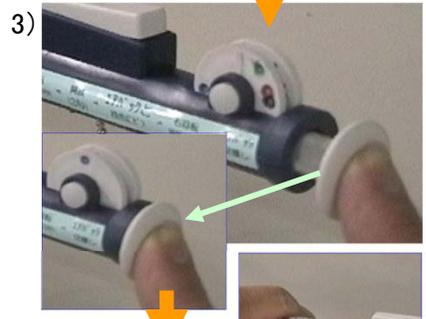


プレス試験3回
・エア漏れ確認
値が急激に下ると不良
・最大値確認

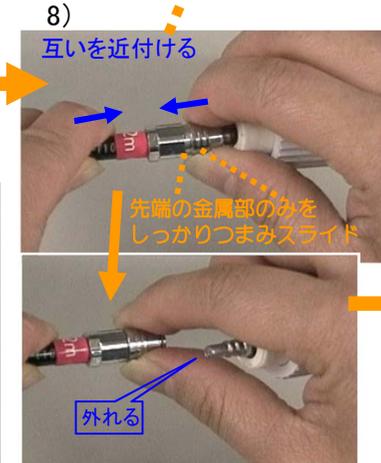
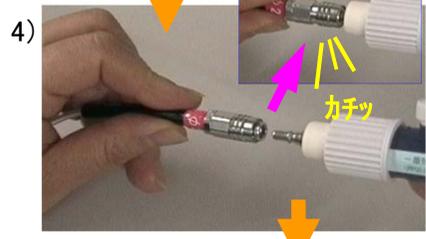
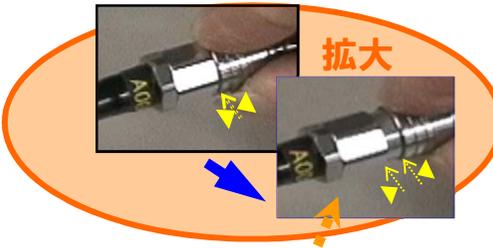


プレス直後の、
最大値を読み、
3回繰り返す

13) 電源 POWER OFF



株式会社 エイエムアイ・テクノ
〒160-0023
東京都新宿区西新宿3-5-3-1313
tel 03-5339-7417
fax 03-5339-7414
E-mail ami-tec@m2.pbc.ne.jp



この時、吸引圧で回転ギヤが戻らないように注意し、開放

